

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	成人老年看護学実習(急性期)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3学年		学期及び曜時限		教室名	各実習施設
担 当 教 員	川原 秀明	実務経験とその関連資格	循環器内科・心臓血管外科・総合内科・ICU・腎臓、膠原病、糖尿内科等で5年勤務。看護教員として7年勤務。			
《科目目標》						
周手術期もしくは健康危機状況にある対象の日々変化する特徴を理解し、回復過程をたどることができるよう、状況に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】成人老年看護学実習(急性期)評価表をもとに評価する 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 株式会社メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
事前学習、課題学習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・実習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。						
実習プログラム						
実習期間 時間数	2025年 5月12日～7月3日 合計90時間					
実習の目的	1. 実習目的 周手術期もしくは健康危機状況にある対象の日々変化する特徴を理解し、回復過程をたどることができるよう、状況に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う 2. 実習目標 1) 健康危機状況から回復に向けて、日々変化する対象の特徴を理解する 2) 健康危機状況にある対象の、回復過程の促進に向けた看護を実践する 3) 回復を促進させるための多職種の連携や看護の役割について理解する					
実習の内容	1) 対象の病態生理・治療・起こり得る合併症について説明できる 2) 対象に起こった生体侵襲の影響を、観察した結果と必要なデータを関連させて説明できる 3) 健康危機状況から回復へ向かう過程が、対象の心理的・社会的側面に与える影響が説明できる 4) 対象の状態変化を考慮し、早期回復にむけた援助が実践できる 5) 対象の状態から、苦痛緩和を考慮し、安全安楽に援助を実践できる 6) 実践した援助を評価し、必要に応じて追加・修正をしながら対象に援助を実践できる 7) 治療上の制約と退院後の生活を見据えた看護が実践できる 8) 対象を術前から術後までを支える多職種連携や看護の役割について説明することができる					